

高等学校 芸術科（美術）シラバス

美術 I のねらい 学習目標

美術 I の授業では「表現」と「鑑賞」の二つの領域を経験する。「表現」は絵画、彫刻、デザイン、立体構成などの実技で主に作品制作で行う。「鑑賞」は様々な芸術作品を見て、感じて、考えたり理解したりして芸術を味わうことで、教科書に載っている作品や様々な画集、ビデオ教材を用いて行う。「鑑賞」の授業を通して一般に芸術的と言われている作品を見て自分なりの思いや印象を持てるようになると同時に、他の人の感性や考え方も理解できるよう成長する。また、「表現」「鑑賞」とともに美術を通して何かを感じる力（感受性）、考える力（審美観）を身に付ける事をねらいと目標とする。

1年次では、中学で養った絵画（平面）、立体、デザインの基本的表現力と鑑賞能力を総合的にのびやかに高め美術への感心と個々の感性を一層深めることを目指す。

2年次では、より高度な題材を通して、ものの構造の理解、自分のイメージの的確な表現とともに、自己の内面世界の「再現」だけでなく、より高度な表現や技法（他者の感性との関連性や版画による印刷表現等）についても経験し、今後の芸術活動への理解や関心と参加へのアプローチとする。鑑賞においては美術の社会的、歴史的な広がりから自らの今日的視点から味わう。

第1・2学年 （芸術選択） 美術 I （2単位）	教科書	高校美術 I（日本文教出版）
	材料用具	画用紙、鉛筆、粘土、粘土板、粘土べら、ペン、ビデオ、画集、スチレンボード、ケント紙、はさみ、接着剤、エッチングプレート（コーティング済み真鍮板）、ニードル、腐食液、インク、プレス機、パソコン、美術雑誌等

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法（多様な造形表現、版画や点描等の特殊な描画表現、対象の内面深部まで迫る観察力）や美術文化に関心をもち、その表現に必要な技能（造形能力や形の把握能力）を身に付ける。	一つの課題を通して感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから自分なりの主題を発見、生成し、意図に応じて、表現方法を工夫して表現できる。創造的な表現の構想ができる。	意図に応じて、主体的に表現方法を工夫できる。美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうとともに、自分と美術から社会と美術の繋がりを拡大して感じ取る。

学習方法

授業での制作、レポート

年間シラバス（2年間の学習予定表）

1年〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1 学期	1. 彫刻(彫塑)	1. 彫像の制作（人物頭像） ・ただ似ているだけの人形を作るのではなく対象の人物の人間性にまで迫った表現をする	<ul style="list-style-type: none"> ・美術、課題への興味・関心 ・発想力、表現方法の理解 ・課題に適した独自の表現、技法、色彩、形、道具の使い方 ・作品の完成度、仕事量以上を総合的に提出作品で評価する。
2 学期	2. 絵画	2. 点描の制作 ・自由な題材を通して対象に対する緻密な観察力、描写力を養う	
3 学期	3. 絵画	3. 自画像の制作（美術表現はある意味では全て自画像と言える） ・デッサンとしての自画像を制作する。	

随時	4. 鑑賞	4. 作者の生き様、時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する ・作品鑑賞、作品、作者説明	レポート 独自の視点で美術作品を捉えて、感じた事を自分の言葉で文章表現できているか。
----	-------	---	---

2年〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1学期	1. 立体	1. 公共芸術（パブリックアート）模型 ・グループで、公共空間（公園）での野外立体展を企画、そのミニチュア模型を合同で制作	・美術、課題への興味・関心 ・発想力、表現方法の理解 ・課題に適した独自の表現、技法、色彩、形、道具の使い方 ・作品の完成度、仕事量 以上を総合的に提出作品で評価する。
2学期	2. 版画	2. 自由な題材を銅版画の技法で凹版画（エッチングプレート）を制作する ・金属版の加工、腐食、刷りといった印刷表現の技法を理解する	
3学期	3. 絵画	3. 「大切な人を描く」（人物画） ・自己イメージをもとに鉛筆による人物像を制作して授業としての美術のまとめとする	
随時	4. 鑑賞	4. 美術の社会的、歴史的広がりを自らの視点から味わう ・作品鑑賞、作品、作者説明	レポート 独自の視点で美術作品を捉えて、感じた事を自分の言葉で文章表現できているか。